

最初にお断りさせていただいたことには、「私は若手ではない」といってごめす。今年、65歳になり、高齢者の仲間になりました。このシリーズは「期待の若手シリーズ 私にも言わせて」ですので、私が執筆するのは「いかながなものか?」と思いましたが、しかし編集担当者から「年齢に関係なく、お願ひして下さる」といって下さったので、執筆させていただきました。

これまでの仕事

大学勤務時代、私の講座では長年、地域住民を対象とした疫学研究を行ってきました。地方自治体の職員や住民の方々と協力して、住民の健康状態を30年以上にわたる追跡調査してきました。特に力を入れていたのは山形県舟形町と高畠町の住民の疫学研究で、これらは「Funagata Study」および「Takahata Study」として、国内よりも、むしろ国外で高く評価されています (PubMedに、上記のkey wordsを入力して医学論文の検索をしてみてください)。例を

挙げると、「糖尿病でなくても、食後高血糖があると心血管疾患のリスクが高くなる」ことを世界で初めて前向きコホート研究で示したのは「Funagata Study」(Tomimaga et al. 1999)です。

この研究結果は、その後、世界各地のコホート研究で追試・確認され、2002年に「米国糖尿病学会の指針」に採用され、07年には「国際糖尿病連合の診療ガイドライン」にも採用されました。私もこの報告から10年が経過し、ようやく日本でも知られるようになりました。

特発性正常圧水頭症はまれな



山形市保健医療監
山形大学名誉教授
加藤 丈夫

2017年3月末まで山形大学医学部内科学第三講座(神経・内分泌代謝・血液内科)の主任教授として、医学部や附属病院で臨床・研究・教育活動に従事。さらに、講座・診療科の管理、運営にも従事する。同年4月山形市入庁、市民生活部に所屬し、現在、2019年4月1日開設予定の「山形市保健所(仮称)」の開設準備に携わっている。

疾患と考えられていましたが、「Takahata Study」(Iseki et al. 2009)により、この病気はまれではなく、アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症と共に四大認知症として扱うべき疾患であることを提唱し、さらに、特発性正常圧水頭症の preclinical stage (発症前の無症状な時期)が存在することを発見し、AVIM(エイビム・asymptomatic ventriculomegaly with features of iNPH on MRI)と命名しました。また、特発性正常圧水頭症のリスク遺伝子を見出し(Kato et al. 2011; Satou et al. 2016)、この結果は昨年、フィンランドとノルウェーの大規模な遺伝疫学研究でも追試・確認されました。このような経験から、疫学調査・研究には大変興味を持っておりました。

社会活動に関しては、災害・停電時の人工呼吸器装着在宅難病患

者さんの搬送システムを官民の各種関連団体が協働し、世界で初めて山形県で構築しました。この新しいシステムの発想は東日本大震災の経験によるもので、「救える命を救う」というコンセプトに基づくものです。詳細は、「難病と在宅ケア」(Vol. 21, No. 3, 2015)をご参照ください。

一方、大学に勤務していたころには、大学病院に入院された多くの重症の患者さん(例えば、複数の重症合併症のある糖尿病患者さんや重症脳卒中患者さんなど)を診療しながら、「もっと早期に生活習慣を改善していれば、何とかできたはずだ」と思うこともしばしばありました。このような経験から、大学退職後は予防医学・社会医学の分野に貢献したいと考えていました。そのような折、山形市から保健所設置のお話があり、その保健所長をお引き受けすること

にした次第です。

現在の仕事

保健所長の資格要件として「3年以上の公衆衛生の実務経験」が法令で定められています。私には公衆衛生の実務経験がありませんでしたので、保健所長の資格要件を満たすためには、埼玉県和光市にある国立保健医療科学院(以下、「科学院」といって)で3か月間の研修を受ける必要があることを、後になって知りました。この研修は法令で義務付けられていますので、受けないわけにはいきません。周りの人からは「保健所長就任をお断りしたら」と助言を頂きましたが、時すでに遅く、お断りした場合には、山形市をはじめ、多くの関係者に迷惑を掛けることになるので、結局、渋々と科学院での研修を受けることにしました。

研修に参加してみると、朝から夕方まで、毎日(月曜・金曜)、座学が多く、また、科目により、「筆記試験」レポート提出があるいは「グループで課題を調査し発表する」等々が課され、学生に戻ったような気分になりました。大学勤

務時代、医学部の学生や大学院生に教えていた時とは立場が逆転し、内心、苦笑していました。

2017年4月中旬〜7月中旬までの3か月にわたる科学院での研修中は単身赴任でしたので、毎日の食事には不自由な思いをし、山形に戻ってきた時には体重が2〜3kg減っていました。

市役所では、私は保健所準備課の部屋に机を置き、しばらくは市役所の作法やしきたりを知るため、周りで働く人の様子を見ながら、市役所の職員、特に医療や健康に関連する業務を行っている職員を対象に勉強会を隔週で開催しました。この勉強会を通して分かったことは、市民の健康データを集計し、図表などを作成している意欲ある職員でも、疫学や統計の基礎知識が少ないということでした。また、健康施策をエビデンスに基づいて行うという視点に乏しいことも目に付きました。しばらくして、県内・県外の多くの市町村でも、同様な状況であることも分かりました。この点は、今後、地方自治体の改善すべき課題と考えました。

今後の方針

そこで、山形市保健所のモットーとして、以下の5か条を考えています。

- ①山形市保健所は、市民の健康増進・疾病予防に貢献します
- ②山形市民の健康状態を把握するため、継続的に調査・研究を行います
- ③科学的根拠に基づいた施策を行います
- ④施策の結果を科学的に評価します
- ⑤職員は常に学び、考える姿勢を忘れません

私の趣味

私は大学時代に邦楽部に入り活動していました。それ以来、時間を見つけては尺八を楽しんでいます。そして、音楽バンド「二音一会」を結成し、演奏活動も行っています。二音一会は、尺八の極意「二音成仏」と茶道の心得「二期一会」からの合成語です。左記に、YouTubeでアップロードした曲を記しました。

お時間のある時にお聴きいただければ幸いです。

■YouTubeにアップロードした曲一覧

- 1)なぜ、わたしだけ
作詞・作曲：かとうたけお、編曲：一音一会
<https://www.youtube.com/watch?v=A3M5lu3x41w>
入院していた難病ALS(筋萎縮性側索硬化症)患者さんの涙を元に作詞・作曲しました。
- 2)Why only me? ... Lamentations of a Woman with ALS.
<https://www.youtube.com/watch?v=MRqtxguwDik>
上記の「なぜ、わたしだけ」の英語版。
- 3)遠いあの日に
作詞・作曲：かとうたけお、編曲：一音一会
<https://www.youtube.com/watch?v=uHerU2Cnrc>
この曲は、人生を共に歩んだ今は亡き大切な人の思い出や追憶の念を歌ったものです。
- 4)Requiem for the 3.11 Victims
(古典尺八の名曲「手向け」、作者不明)
<https://www.youtube.com/watch?v=ancYkA8ARs>
別れゆく人を惜しみ悲しむ曲で、古典尺八の名曲の一つ。作者は現在でも不明。
3.11後の医療支援で南三陸町の診療所に行った時に、犠牲になった多くのの方々のご冥福を祈り、被災地で人知れず演奏してきました。